

校区まちづくり協議会地域別計画意見交換会ご意見概要

<p>まち協活動の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まち協ができたことで、既存団体の区割りに影響されず、防災訓練等地域全体の課題に対して小学校区全体で取り組むことができるようになった。 ・既存団体をサポートする立場という新しい役割を担っている地域もある。 ・防災の備品や学校行事のテントなど、これまで購入できなかった地域の大きな課題に対して交付金を使えることができ、地域活動を支えている。 ・運営方法では、「できる人が、できることを、できるときに」を基本とし、メールなども活用しながらみんながやりやすいように努めている。 ・行事ごとに反省会を実施するなど、少しずつでも改善が図られるようにしている。 ・土日の活動は現役世代が、平日は高齢者が、というような役割分担が図れている。 ・既存団体に加え、福祉施設や社会福祉協議会等幅広いつながりをつくることができた。 ・既存団体の若手がまち協の担い手になる等の仕組みができてきている地域もある。
<p>担い手</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの高齢化 ・人手不足 ・層が薄い(世代に偏りがある) ・スキルの不足 ・達成感が少ない
<p>組織運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交付金の使途制限が厳しい(飲食等) ・金額が少ない ・課題が共有できてない ・校区割が地域活動の妨げとなる(団体間の意思疎通や費用負担) ・担い手創出のための人材が必要 ・担い手への負担の偏り ・既存団体に属していない人の声を拾う仕組みがない ・役員が変わると運営方法や過去の経緯を引き継ぎができない ・個々の団体の弱体化
<p>連携(行政・他団体・事業者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体と似た事業の情報が入ってこない(防犯パトロール等) ・行政との連携が不十分(対話の場がない、条例等の規制、窓口が不明瞭、計画内容や実施状況が抽象的) ・地元企業と住民の接点が少ない ・個人情報提供に制限がある
<p>広報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当が流動的だが、そのたびの手続きが煩雑(HPのプロバイダ契約等) ・イベントへの男性参加者が少ない ・子どもの参加者が増えない ・テーマ型事業への協力依頼方法がわからない ・役員に対するイメージの悪化 ・外国人による活動参加が認知されていない ・スキルのある地域人材を呼び込めない ・紙媒体が多く、スマホ等での効率的な拡散ができない ・団体未加入者への情報発信方法が少ない ・理解促進や苦情対応のため、行政の後押しがほしい
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○防犯対策に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの設置場所の決定に制限が大きく、手続きが煩雑である ・景観を優先した整備や商業施設の参入が治安の悪化につながる懸念がある ○防災対策に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練のマンネリ化や参加者が増加しない ・特に若い世代の参加が少ない ・防災意識や避難行動について、住民内での意識差がある ・避難経路が分かりにくい等の制約がある ○少子高齢化やコミュニティの希薄化に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・町会加入率の低下 ・子ども会加入率の低下 ・地域内で子どもの数に偏りがある ○基盤整備(施設、道路)に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・道路の劣化が進んでいる ・施設のバリアフリー化が不十分 ・高齢者の移動手段が少ない ・交通手段が制限されている地域がある ・通学路の交通危険箇所がある ○活動拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育所、コミセンや集会所など集まれる場がない ・活動拠点が少ない